

## 昨年の“臓器移植を考える県民大会開催”について

### 1. 県民大会報告

移植医療への理解を深める“臓器移植を考える県民大会”(主催:兵庫県、(財)兵庫県健康財団、兵庫腎疾患対策協会、以下、同県民大会とします)は昨年10月16日、神戸市内のホテルで開催され約300人が参加しました。

大会では、まず、赤井しのぶさん(兵庫県移植コーディネーター)と渡邊和誉さん(兵庫アイバンクコーディネーター)がスライドを使って「我が国と兵庫県における臓器移植の現状」を報告されました。その後、間澤洋一さん(日本ドナー家族クラブ会長)と古市忠夫さん(プロゴルファー)が夫々講演されました。間澤さんの講演は、「生命の大切さを伝える旅に出よう」というテーマで、主に、米留学中に交通事故に遭い臓器提供をした長女の朝子さん(当時24歳)についてのものでした。氏は、その中で、「人は支えあひながら生きていくと娘から教わった」と話され、朝子さんから臓器提供を受けたアメリカ人たちの交流についても話されました。

古市忠夫さんの講演は、「あきらめるな」というテーマのもと、自身が阪神淡路大震災を乗り越え「悪暦」にしてプロゴルファーとなり、「どれだけ努力したくても努力できない人がたくさんいる中で、努力できる喜び、感謝できる人になってほしい」と話されました。

また、アトラクションでは、神戸市立中央小学校のコーラス部の生徒の皆さんが10年前の震災時につくられた“しあわせ運べるように”や“涙そうそう”など3曲を元気一杯に歌い、聴衆に新鮮な感動を与えてくれました。

### 2. 県民大会と臓器移植の普及活動について

従来、移植を身近に感じていない方たちに臓器移植の話をすると、他人の問題として避けられるのが普通でした。しかし、最近の普及活動から私たちは「いのちの大切さ」から話しをして、その中で臓器移植の話をすると素直に聞いて頂けることもあると学びました。過去の同県民大会についても、一般の方たちには関心が薄く、今まで、主催者側の行政の方たちが観客を集めるのに苦労されたもうなげける点がありました。

兵庫腎移植の会 会長  
兵庫県臓器移植推進協議会 運営委員長

川瀬 喬

臓器移植の普及活動をしている私たちの願いの一つに、同県民大会の開催について、行政が出来ない役割を民間が補って互いに協力し合っでできないかと思っていました。二つ目の願いとして、普段、移植のことを考えなかった方たちと「いのちの大切さ」の話し合いをして、その中で共感して頂いた方たちから少しでも、同県民大会に来て頂けないものかと考えていました。

昨年の同県民大会から、私たちの願いの官民一体が実行出来る様になりました。窓口の(財)兵庫県健康財団の担当の方と私が所属している兵庫県臓器移植推進協議会の役員たちの間では、開催半年前から、開催の趣旨の確認、取り分け観客集めについて、綿密に打合せをしました。その上で、その担当の方と一緒に、以前から小生と交流のある日本ドナー家族クラブの間澤代表への講演依頼の打診から中央小学校コーラスの出演交渉などを行いました。幸いにも、その両方から快諾の返事を頂くことができました。二つ目の願いの実現の為、その後2人3脚で、同県民大会への上述の方たちの参加に向け、いのちをテーマにしている震災関連の市民団体、地元の婦人会や高等学校などを訪れて働きかけました。それらの訪問先では、私たちが共に体験した阪神淡路大震災と臓器移植の問題の共通点について(人々が支えあっていくことの大切さやいのちの大切さについて)話し合いをしました。

同県民大会の当日には、事前に働きかけた市民団体・婦人会の方たちや学生たちが約20人に参加して頂きました。殊に、婦人会の方たちが夫々の地域で様々な問題(介護・児童虐待問題など)を抱えて多忙だったにもかかわらず、数人の方たちが足を運んで下さいました。私たち関係者が働きかけたことが今後の普及活動に繋がるとしたら、努力した甲斐があったと思っています。

本年7月9日には兵庫腎疾患対策協会の設立15周年記念総会において特別講演(河野太郎氏)があります。また、10月には、臓器移植推進全国大会が神戸市内で開催を予定しています。その特別講演や上記全国大会には、昨年の同県民大会と同じ様に、今まで移植に無縁だった方たちにも働きかけて、少しでも多くの方たちに足を運んで頂くことができたらと思います。



# Gift of Life

兵庫腎疾患対策協会会報
2005.6.

---

Vol. 13

---

発行：兵庫腎疾患対策協会  
住所：〒659-0093 芦屋市船戸4-1-415 (安井眼科内) TEL:0797-31-8288 FAX:0797-22-6144

## 移植医療の飛躍を目指して

神戸大学理事・副学長  
兵庫腎疾患対策協会 会長  
**守殿 貞夫**

腎疾患、移植医療等、なかでも腎移植医療の飛躍を目指して、その推進を支援することを一つの大きな目的として、故石神真次神戸大学名誉教授を会長として、兵庫腎疾患対策協会が1990年に創設された。

国際ソロプチミスト神戸東の皆さんを中心に、趣旨に賛同いただいた一般の方々、ならびに医師等医療関係者がそのメンバーでした。今年で設立15周年を迎えるにあたり7月9日、ポートピアホテルにおいて記念の式と講演会を開催します。河野太郎衆議院議員に講演をお願いしております。河野議員は生体部分肝移植のドナーを体験しておられます。そのご経験からの生体臓器移植の問題点、脳死下での臓器提供の必要性等のお話が伺えます、お聞きしております。

さて、われわれ会員は15年間何をしてきたのか、何が出来たのか。「何をしてきたのか」には枚挙に遑が無いが、「何が出来たのか」には答えが無い。

献腎移植(心停止後ならびに脳死ドナーからの移植)は一向に普及しない。どうしてなのか。1997年の臓器移植法に問題があるのか。わが国では生体臓器移植が、好んでではないと思われるが、昔から他国に比べ比較的多く行われている。国民性として、ボランティア精神に乏しいのか。単なる努力不足なのか。いろいろと考えられるが、一元的に解答が得られるものではなく、今述べた要因が複雑に絡まりあっているものと思いたい。

兵庫腎疾患対策協会はこれまで腎移植の推進を中心に活動して来たが、他臓器の移植推進にも目を向ける必要があるのではと考えている。この件は以前から話題になっていることでもあり、この15周年を機に活動内容の再考と共に本協会名も腎疾患を外し、広く臓器移植に関わる協会名に変えた方がいいのではと考えております。それにより活動の輪が広がることが期待される。何んとしても、家族に大きな負担がかかる生体臓器移植に代わる、脳死ならびに心臓停止後臓器移植の普及が望まれる。

兵庫県には我々の協会とは別に民間グループの臓器移植推進協議会もあり、また行政のご指導も仰ぎ、一丸に成って移植医療の飛躍を目指したい。

### 第15回 総会 及び 講演会のご案内

兵庫腎疾患対策協会15周年記念講演会

生(いのち)命

河野 半平 への 肝移植を体験して

日時 2005年 7月9日(土) PM4:00~5:00

場所 神戸ポートピアホテル 借栄の間  
TEL078-302-1111

入場 無料(申込要)

主催 兵庫腎疾患対策協会

後援 兵庫県・神戸市・神戸市教育委員会  
兵庫県医師会・兵庫県臓器移植推進協議会  
国際ソロプチミスト神戸東・神戸新聞社



講師 河野 太郎氏  
衆議院議員

参加申込 兵庫腎疾患対策協会(先着300名)  
氏名、郵便番号、住所、TEL/FAX、参加人数を明記して下記へおかけ FAX: E-Mailのいずれかで申し込み下さい。懇談会(おかけ)をお送りします。

総会 PM3:00~3:30 15周年記念式典 PM3:30~4:00  
懇親会 PM5:15~7:00 会費 7,000円

兵庫腎疾患対策協会 (事務局) 〒659-0093 芦屋市船戸4-1-415 安井眼科内  
TEL0797-31-8288 FAX0797-22-6144  
e-mail: hyoinkyou@v101.vaio.ne.jp

### 2005~6年度 兵庫腎疾患対策協会 役員・幹事 ※は新役員・幹事 候補

<b>会 長</b> 守殿 貞夫	<b>副会長</b> 森村 美佐子	<b>幹 事</b> 荒川 創一	<b>幹 事</b> 杉本 照子
神戸大学理事・副学長 兵庫腎移植の会 会長 神戸大学医学部附属病院 手術部・感染制御部長	兵庫腎移植の会 会長 NPO法人兵庫腎腎友会 会長 神戸大学大学院医学系研究科 泌尿器科学分野 助手	兵庫腎移植の会 会長 NPO法人兵庫腎腎友会 会長 神戸大学大学院医学系研究科 泌尿器科学分野 助手	兵庫腎移植の会 会長 NPO法人兵庫腎腎友会 会長 神戸大学大学院医学系研究科 泌尿器科学分野 助手
佐野 川谷病院 院長 内藤 秀宗	兵庫医科大学 内科学 腎・透析科 教授 兵庫県臓器移植コーディネーター	国際ソロプチミスト神戸東 三田・寺橋 泌尿器科 医師 寺 祐一 徳	国際ソロプチミスト神戸東 豊永 清 神戸大学大学院医学系研究科 泌尿器科学分野 教授
兵庫県臓器移植コーディネーター ※ 藤原 亮子	兵庫医科大学 内科学 腎・透析科 教授 宮本タリニック 院長 兵庫県透析看護協会 会長	国際ソロプチミスト神戸東 八馬 富久子 兵庫医科大学 救命救急センター 副部長 安井眼科 院長	国際ソロプチミスト神戸東 藤澤 正人 兵庫医科大学 救命救急センター 副部長 安井眼科 院長
高砂市民病院 名誉院長 後藤 武 男	長入天満診療所 長 久 謹 三	国際ソロプチミスト 神戸東会長	事務局長 安井 多津子



## 内科医からみた腎移植

兵庫腎疾患対策協会 幹事  
兵庫医科大学 内科学 腎・透析科  
教授 中西 健

腎移植患者の診療は泌尿器科の先生方を中心に進められており、私どもでは移植を待たれている患者の手術までの透析および移植腎生診断の補助をさせていただいているのが現状ですが、腎移植の最も近くにいる部外者としてどのように見ているかを述べてみたいと思います。

臓器移植ネットワークを介した献腎移植の例数は伸びておらず、末期腎不全治療を受けている患者で腎移植を希望するものは生体腎移植に頼らざるをえないのが現状です。「生体腎移植後ドナー側の残存腎に問題はないのか」という疑問をいつも抱いています。腎移植を行なっているいずれの大学病院のホームページをみても、腎臓での経験から一方の腎臓を切除しても腎機能の変化は認められないドナー側は腎臓を提供しても問題ないと述べられています。このことは裏を返すと腎不全の患者さんをみた場合に血清クレアチニンが上昇するということは腎臓の半分以上はその機能を失っていることとなります。また、腎機能障害は進行性なのに半分機能を取除いても問題ないのだろうかと考えるわけです。

正常の腎の働きを簡単に説明しますと、腎臓に流れてきた血液中の血漿成分(血球以外の部分)の約20%が糸球体で尿のもとになる原尿として濾過され、その99%は尿細管を通過するうちに再吸収され、残りの1%が尿として排泄されます。この間に老廃物を尿中に濃縮し、必要な物質は体内に回収する作業を行っています。糸球体から尿細管にいたる単位をネフロンとよんでいますが、2ヶの腎臓には約200万個のネフロンが存在します。

ここで重要なことに気づかれると思います。1つの腎臓で血清のクレアチニン値は変わらず機能が維持されているということは、たとえ半数以上のネフロン数が減少しても残りのネフロンが機能亢進することにより見かけの腎機能は保たれることになることです。しかし、個々のネフロンでは、糸球体が過剰濾過という現象をおこしており、糸球体高血圧という無理をさせていることがわかっています。糸球体高血圧は糸球体硬化・腎の硬化の原因となることが考えられており、徐々に腎機能が低下すること、そして血圧の上昇が起ってくるのが危惧されます。これは何を意味することになるかは皆さんにも理解いただけると思いますが、ドナーにとても過剰濾過を防ぐような塩分制限や蛋白制限などの食事療法を始めないといけないこととなります。確かに多くの場合にはドナーの生涯を通じて腎機能低下は問題にならないかもしれませんが、ドナーも定期的な健診を受け、血圧の異常、尿蛋白の出現に注意する必要があります。

次に末期腎不全治療すなわち血液透析や腹膜透析を受けておられる患者にとって、腎臓に対する再生治療の可能性は最も期待されおられるものと考えます。再生医療として幹細胞移植と遺伝子治療があります。幹細胞とは体内のさまざまな細胞に分化できる細胞が骨髄そして末梢血中にもあり、これらの投与はそれぞれの臓器・組織再生を促進することが期待され、すでに閉塞性動脈硬化症の患者さんの血管再生で一部実用化されています。

しかし、腎臓においてはマウスなどの小動物での一部腎尿管の再生が認められるとの報告があるのみです。遺伝子治療に関しても腎の再生は考えられておらず、腎障害を促進する因子の制御が中心です。

腎の一番重要な機能は体内の塩分やミネラルを一定に保つことです。腎臓の尿管では上述したように、糸球体で濾過された大量の原尿から種々の成分を再吸収することにより最終的な尿を作り出しています。すなわち、大量に塩分やミネラルを摂取した場合にはそれに応じて尿中に排泄を増加させ、汗や下痢で失われた場合には再吸収を高めることにより尿にほとんど排泄しなくする必要があります。体内のこれらの成分がくると、全身の細胞での機能が十分に発揮できなくなります。これらの機能を果たす尿管は、単一の機能を持った細胞の集まりではなく、近位尿管、ヘンレ係蹄、遠位尿管、集合管といった多機能な細胞の集団が統合・調和して体内の環境を調節していることとなります。そのため、腎臓の再生が困難な理由はとりもなおさず尿管が多様な細胞の組み合わせで成り立っており、1種類の細胞が再生しても元の機能を果たすことができないことです。

また、腎不全に陥った患者さんの腎臓をみてみると、糸球体のみならず尿管も硬化してしまい、すなわち怪我をして直ったときに組織が硬くなって元の状態とは異なっているようになってしまっています。このような組織の中で腎臓の再生を計ることは困難極まりないと言わざるを得ません。現在の跳躍の進歩の時代に画期的なことがないといえませんが、現在知りえる範囲では腎の再生が実現化する可能性は低いと考えます。

現在個人的に近未来的に最も可能性のある治療と考えておりますのは、異種移植すなわちヒトではない動物の腎臓の移植です。すでに心臓ではブタ由来の弁が実用化されていますが、腎ではブタ固有のウイルスや抗原抗体反応のため実用化に至っていません。しかし、近年の免疫学およびクローン技術の進歩が異種移植を可能にするのではないかと予測しています。

最後に結論を申し上げますと、本日述べたところの生体腎移植におけるドナーの問題点、さらに本日は述べなかった社会的な問題点を考えると、生体腎移植は必ずしもよい選択肢ではありません。また、腎の再生医療の実現が違ひとしますと、献腎移植の普及の重要性が再認識されます。



## 兵庫県臓器移植コーディネーターに就任して

兵庫県臓器移植コーディネーター  
兵庫腎疾患対策協会 幹事

藤原 亮子

H17年4月1日より赤井しずみさんの後任として、兵庫県臓器移植コーディネーターに着任致しました藤原亮子です。私はこのお話を頂くまでは、看護師として救急現場で働いていました。救急現場で働く中で脳死状態の患者様に接することも多くありました。しかし、その方々の選択肢の一つとして、臓器提供というものがある事や日々の業務が忙しいうち、考えなかったのが実情です。また自分自身も臓器移植について報道などによる情報程度しか知らず、臓器提供意思表示カードさえ持っていない状況でした。この状況は私だけの問題で無いように思えます。現場で働く医療従事者は日々の業務に追われ、なかなか臓器移植についての情報を自ら得ることは困難であると思います。また医療従事者でもこのような状況であれば、一般の方々にご理解頂くにはかなりの努力が必要と考えられます。私は移植コーディネーターとして何をすべきかを考えた時に、医療従事者各個人の認知度を高めて頂き、単にドナーを増やす普及啓発活動ではなく、善意によって成り立つ移植医療を進展させる為、県民一人一人の意思を尊重出来る啓発活動に努めて行きたいと思っております。実際に着任して一ヶ月、ほとんど啓発活動をしないうちに、心停止下での腎提供を1例体験させて頂きました。今回ご希望されたご家族でさえ、承諾されてからもかなり悩まれ、精神的負担になる事を痛烈に感じました。また提供施設側の医療スタッフの方々には、かなりの負担を強いられた状況でした。

しかし、皆様【最後の患者様の意思】を尊重するという事でご理解ご協力頂き、無事に提供頂いた後は本当に喜んで頂けました。今回の体験からコーディネーターはドナー・ドナーファミリー・提供施設・レシピエント・移植施設全ての方々と関わる事ができる本当に素晴らしい職業であると共に、責任があることを実感致しました。

今後の活動においては兵庫県民に広く移植医療に関する情報を提供すると共に、一人でも多くの方に自分の意思を持ってもらえる様な働きかけを行い、提供施設の方々にはできる限り負担が少ない状態でご協力いただけるようなシステムを構築出来るように努めて行きたいと考えております。まだまだ未熟でございますので、皆様のご協力ご指導を賜ります様宜しくお願い致します。



### 活動報告

#### 2004年度 活動報告

(2004年4月1日～2005年3月31日)

- ①会報「Gift of Life」Vol.12の発行 (7月)
- ②第14回総会開催 (7月31日 於 ホテルオーク神戸)  
講演「透析医療における透析医会の災害対策について」  
講師 申 曾殊先生 兵庫県透析医会副会長  
日本透析医療災害時透析医療対策部会長
- ③兵庫県健康財団「臓器移植を考える県民大会」へ共催(10月16日)
- ④神戸新聞に一面広告掲載  
「いのちの贈り物 一あなたとあなたの家族へー」(10月24日)
- ⑤兵庫県臓器移植提供懇話会支援
- ⑥兵庫県臓器移植推進協議会支援

#### 2005年度活動計画

(2005年4月1日～2006年3月31日)

- ①会報「Gift of Life」Vol.13の発行 (6月)
- ②第15回総会開催 (7月9日 於 神戸ポートピアホテル)  
15周年記念式典  
15周年記念講演会  
「生命(いのち)の父 河野洋平に肝移植をした経験からー」  
講師 河野 太郎 氏 (衆議院議員)
- ③神戸新聞に一面記事体広告掲載
- ④兵庫県臓器移植提供懇話会支援
- ⑤兵庫県臓器移植推進協議会支援
- ⑥その他